

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

日 時 平成 23 年 2 月 17 日 (木) 10:00 ~ 11:10

場 所 合同庁舎 4 号館 1214 会議室

出席者 相澤議員、本庶議員、奥村議員、今榮議員、白石議員、中鉢議員、金澤議員、
泉統括官、梶田審議官、吉川審議官、大石審議官

議事概要

1 . 2012 年度米国大統領予算教書における科学技術関連予算の概要

< 奥村議員、泉統括官、栗原参事官説明 >

白石議員 どちらかというレトリックに近い話ですが、ぜひ大統領の一般教書演説の 5 枚めくって 11 ページ目に当たるのですけれども、下から 2 番目のパラグラフです。英語版です、このオリジナルの。ステートオブザユニオンアドレスの原文の 11 ページ目です。5 枚めくりまして 11 ページ目に、下から 2 番目のパラグラフですけれども、I recognize で始まる文章の下から 3 行目。Cutting the deficit by gutting our investments in innovation and education is like lightening an overloaded airplane by removing its engine. It may feel like you're flying high at first, but it won't take long before you'll feel the impact. (イノベーションと教育への投資を骨抜きにすることで、財政赤字を削減しようとするのは、重量超荷の飛行機を軽くするために、エンジンをはずすようなものである。それは、最初は高い空を飛んでいても、その打撃を感じるまでそう長くかからないようなものである。) とあるのですね。これが基本的な考え方だと思います。ですから、訳すのはいいのですけれども、これを落としてしまうと、実は一番肝心のメッセージが落ちてしまうので、ぜひそれを入れていただきたいということです。

奥村委員 先ほどもありましたけれども、STEM、いわゆる科学技術教育ですね、これをきちんと科学技術の中で取り込んでいるということと、毎年きちんと STEM については重視される考え方で資金配分されているのです。前にもここでご報告したかもしれませんが、その結果として、アメリカの高校生の物理の履修率が 1970 年代に比べて、十数%であったのが、いまや 30% 近くまで上昇しています。そのレポートが出ておりますけれども。

何をしたかといいますと、教科書を変えたことと、やはり先生を Ph.D をとっている方に変えていくとか、そういう長期戦略で底力を上げて来た。そういうことをきちんとやっているというのは非常に脅威でもあるし、極めて教訓的だろうと思っています。そういうことを我々もやらないといけません。

本庶議員 したがって、これは総合戦略であるということです。ですから、単に科学技術のどの分野にどういうお金を使うという話ではなくて、それが産業政策でもあり教育でもありと、全体の国家の戦略の中での相対的な位置付けをして、そしてその中で予算をこういうふうに分けていくということまでつながらないといけません。いわゆる国家戦略局的

な視点がないと、こういう動きはできないと思うので、我々もそういう方向を目指してやるということだろうと思います。

相澤議員 今ご意見が出てまいりましたが、1つは予算編成のシステムが大統領府のもとにOSTP、OMB、しっかりと体制がとれていて、全体を大統領がまずきちんと方向を出すというところから始まってここにいくと。

その次に、このOSTPは各省から必ずリプレゼンタティブが出ているので、ここが同時に全省にわたる調整機能も発揮できるような体制になっている。同時に、OMBがリンクしているので、予算のところへの反映もきちっとできると、こういうようなことだと思います。

この7月21日の資料が出てまいりましたので、少し補足いたしますと、この段階で非常に重要なメッセージは、この関連資料の英文の1枚目の裏側、2ページというところがあります。この2ページの下から3つ目のパラグラフに、ここに各エージェンシーに重要なメッセージが出ておまして。ここはoutcome-oriented goalsという言い方になっておりますが、今まで各省も日本と同じように分野で重点施策を推進していたという状況ですが、それをこういう方向に切り替えていくよと、そのための何がチャレンジなのかというのが6つ出ているわけです。こういうような形で、ここのところで今回の予算教書に出てくるような方向付けをしているというところなのですね。

ですから、今までの分野で重点的に進めていることを軽視するわけではないけれども、こういうところに向けるものは次々と向けて、そして明確なる目標を立てるよと、こういう形になっています。

そのようなことで、先ほど奥村議員からありましたように、全体、トータルのシステムとして非常に効果的な予算編成を行っているというところだと思います。

こういうところを学ぶべき点、我々としても取り入れるべき部分等々も参考になるのではないかと思います。

それでは、この件につきましては、先ほどありましたように、JSTでも少し調査及び分析を進めているようですから、その結果をもちましてまたここで披露していただくということにさせていただきます。

2. 戦略推進費について

(来年度予算に関する事項であるため非公開)

(以上)